



# 委員会報告

## 先進地などへ視察調査

### 文教厚生常任委員会

### 地域包括支援の取組と現状について

11月2日——高齢介護課・地域包括支援センターウエルシアハウス

地域包括支援センターは、地域の高齢者の暮らしや健康などを支援するために設置されている機関であり、誰でも気軽に利用できる相談窓口です。市内には、日勝圏域を担当している「地域包括支援センターぽっかぽか」と今回の視察先であり、篠津・大山圏域を担当している「地域包括支援センターウエルシアハウス」があります。

視察をして、子どもから高齢者まで受け入れられている姿勢と、介護施設にはない開放的なカフェスペースは、画期的であり、おしゃべりや情報交換や憩いの場として今後、定着していくのではと期待できるものでした。

そして、これらの取組が、市・企業・住民

による地域密着の先進的な運営事例となるには、これからの市と企業の継続的な姿勢・努力・成長が必要になります。視察をして、民間ならではの熱意と柔軟な姿勢を感じ、今後の事業の拡大が期待できると感じました。

介護保険サービスは、地域コミュニティの充実など、課題が山積しています。しかし、今回の調査を参考にし、真に制度が定着し、幅広く地域に受け込み機能するよう、議会として取り組むことが重要であると考えます。



### 産業建設常任委員会

### 企業参入による地域農業の振興について、インターチェンジ周辺地域の土地利用について

10月11日・12日——千葉県君津市・静岡県牧之原市

君津市の農業生産法人株式会社カズサとまとガーデンは日本デルモンテアグリと提携し、ガラス温室で土を使わない水耕栽培システムにより、6,000本のトマトを栽培しています。日本デルモンテが開発したトマトを生産、販売すると同時にトマトの摘み取りができる観光施設にもなっています。

大規模なトマトの生産施設を探していた企業と、施設が市街地から比較的近いため労働力が確保しやすいカズサとまとガーデンとがうまくマッチングしたので事業展開となったとのことでした。

農業の企業参入は、現在の日本の農業が抱える担い手の高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増加などの課題を解消するひとつの手段として期待されて



いるものであり、君津市でも、企業の参入により雇用が拡大し、有効な農地利用が展開されていました。

当市においてもこうした企業との連携による可能性のさらなる模索が必要であり、企業の情報を俊敏にとらえると同時に当市が持つ強みの情報発信に一層、力をそそぐべきと考えます。

牧之原市のインターチェンジ北側土地区画整理事業は、急激な人口減少や地震被害の想定を背景に立ち上げられました。南海トラフ地震対策のため静岡県が推進する「内陸フロンティア推進区域」に指定されていることもあり、農業、都市計画、事業認可などの調整が順調に進められるのではないかと推測されます。

